

平成 29 年度重点施策の達成状況評価

1 基本施策 1：市民活動の裾野の拡大

1-1. 市民活動のきっかけづくり

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

市、武蔵野プレイス、市民社協ともに様々な事業を実施しており、積極的に市民活動のきっかけづくりに取り組んでいる。参考指標についても、増加傾向にある。今後については、市民活動への参加の多様性を進めるため、特定のテーマにとらわれず、広く世代別、テーマ別の事業が行われているか進捗を確認する。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

市民活動のきっかけは、活動を楽しんでもらうことが必要。
また、自分が興味のある活動の講座に参加する等、「学び」がきっかけとなることは多い。
市・武蔵野プレイス・市民社協が行っている事業は多くあるが、それを必要としている人が目につく工夫をするとよいのではないかと。

2 基本施策 2：市民活動の促進と自律・自立に向けた支援の充実

2-4. 市民活動に関する学びの機会の提供

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

市、武蔵野プレイス、市民社協において、様々な事業が実施されている。今後も団体・法人の実践力の向上及び組織の安定化を図るため、団体のステージに合わせた支援を充実させる必要がある。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

市民活動を活性化させるには、市が自ら行っていない事業であっても、近隣地域で行われている事業などの情報を持ってほしい。

市民団体やボランティア団体、大学等が行っている市民活動に関する学びの場を見える化できるとよい。

コミュニティ未来塾むさしの修了生が、市の長期計画市民会議にて市民ファシリテーターとして起用されている。そこで未来塾に興味を持った人が未来塾に参加し、次の市民会議でファシリテーターになるという流れができている。

2-6. コーディネート機能の強化

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

市民活動団体との協働による事業実施により、団体同士のネットワークづくりなどは行われているが、地域・企業との交流が少ない状況である。今後、市、武蔵野プレイス、市民社協の役割の明確化するとともに、市民活動団体と、地域・企業等とのパートナーシップ締結のための支援及びコーディネーターの育成支援が必要である。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

コミュニティ協議会でコーディネート機能を発揮できないか。地域で様々な活動をしている方が多く、繋がりづくりはやりやすいと考える。

また、中間支援組織は重要と思われ、市全体でなくとも目的別・分野別の組織があってもよいのではないか。